西日本放送

活動名	RNC 子ども未来プロジェクト 2023
実施期間	令和 5 年 10 月 5 日～ 23 日
実施回数	会場 3 回

【事業実施の成果・課題】

高松市教育委員会にご協力を頂き、今まで読み聞かせ授業を実施したことがない学校の中から 3 校を推薦してもらいました。今年度は高松市内の 3 校で実施をしました。

アフターコロナということもあり、滅多にない機会なので、同学年全体や全校生徒が参加できる授業をしてほしいという学校側からの希望もあり、今回は 3 校とも体育館で授業を行いました。

大人数での授業となりましたが、先生方の協力もあり、子どもたちはアナウンサーの説明に一生懸命耳を傾け、真摯に向き合ってくれて本当に感動しました。

今年度は高松市内の小学校だけの実施となりましたが、次回はアナウンサーの調整を含め、香川県内の他の地域の小学校での実施も検討していきたいと思っております。

【事業担当者およびアナウンサー（講師・読み手）の感想】

<中條アナウンサー>

局紹介ではいくつかの自社番組を紹介し、見たことがあるか尋ねると、積極的に手が上がり「知ってる！」と嬉しい声も聞かれました。長音では全員が立ち、声が切れた児童から座るよう伝えました。

残った児童が視覚的に分かりやすいことで競争意識も生まれ、より頑張る意識が高まったようです。

早口言葉では最初は声が合わなかった児童たちですが、「周りの声を聞きながら」という声掛けにより、友達と声を合わせることの楽しさや達成感も感じていたようでした。短い時間で児童たちの成長を感じることができました。

<宮田アナウンサー>

訓練して声を出すことで「いろんな声の表現が出来ること」「自信が持てるようになること」が伝えられたらいいなと思い臨みました。実際に子どもたちと対面すると逆に学ぶことが多かったように思います。少し間を取るとその瞬間に子どもたちも一緒に息をしたりじっと空気が張り詰めたのを感じ、雰囲気というのは一緒に作り上げていくんだなと感じ、普段からテレビの前にいる視聴者を想像しながら伝えなければなと思い知らされました。

これから子どもたちが「声を出すこと」に臆せずのびのびと自分の思いを伝えられるように育ててくれたらいいなと願うばかりです。

<野並アナウンサー>

始まる前は学年問わず静かに座り、大人しい印象でしたが、始まると元気になり、時には笑いながら話を聞いてくれました。また豊かな自然に接して学校生活をおくる児童たちの純粋さを感じました。

そして、印象的だったのはテレビを観ている児童が多かったことです。普段テレビを観ているかと挙手を求めたところ、想像以上にほとんどの児童の手が挙がりました。「テレビ離れ」と言われていますが、小学生は、思っている以上に観てくれてるということがわかったのです。この子どもたちが成長しても観たいと思ってもらえるような良い番組作りをしていこうと、身が引き締まりました。

【教諭・保育士・子どもたち・視聴者などの感想】

<先生方の感想>

- ・人前でスピーチが出来なかった児童がスピーチしている様子が見られた。
- ・授業内でもハキハキ言える児童が増えた。
- ・声の出し方が具体的に分かったことで自信をもって発声できている。
- ・コロナ禍で大きな声を出す機会が少なかった児童にとって、とても楽しい授業となった。

<子どもたちの感想>

- ・良い声を出すには色々な準備をすることを知りました。
- ・本物のアナウンサーに対面であえてすごうれしかったです。
- ・絵本の朗読では、途中で読む人が交代すると雰囲気が変わってびっくりした。
- ・これからは姿勢や口の開け方に気を付けて音読を頑張りたい。